

北九州市立かぐめよし少年自然の家指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和3年9月30日(木) 14:00~15:30
- 2 場 所 北九州市役所 15C会議室
(北九州市小倉北区城内1-1 15階)
- 3 出席者 検討員：村上委員(座長)、松木委員、三船委員、
原田委員、壹岐尾委員
事務局：子ども家庭局青少年課長、管理係長、担当職員

4 会議内容

- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について事務局より説明
- 検討員の互選により、座長の選出
- 提案概要に関して応募団体よりヒアリング

【玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(検討員) 基本方針が明確で、自然環境への理解に加え、里山関係、SDGsの観点も取り入れられていて、とても良い。

計画上受入れる人数が、この5年で、6,000人から14,000人、20,000人と上がっているがそれが本当に可能かどうか。

かなり老朽化している施設のため、大規模な改修は市がするとして、普段の修繕もたくさんあると思うが、それに対応する事前策をどのようにしているのか。

(応募団体) 青少年施設で一番大きなウエイトを占める中学校のふれあい合宿の在り方が見直され、これまでは、市内の全中学校が玄海、かぐめ、もじの3ヶ所に分散して、2泊3日の宿泊合宿だったのが、日帰り、1泊2日、2泊3日またはしなくても良いという自由選択制になったため、一気にここで中学校の利用者数が減少した。また、今年度もコロナの影響でふれあい合宿が中止になり大きく減少した。

平成29年度前後はほぼ2万人前後を推移。平成30年度に若干減少しているが、小中学校の利用についての変化はほぼない。変化したのは、学校自主事業と青少年団体が減少。これについては非常に危惧している。

利用者が大幅に減少し、令和2年度は6,000人をなんとかキープしている

状態。6,000人から一気に上がることが出来るかという質問に関しては大丈夫だと思っている。市内の予約が優先されていた分、市外利用者が使いづらかったと考え、市外利用者に関しても、予約が早く取れるよう規定を変更し、福岡県内の小中学校に受入れのダイレクトメールを玄海青年の家、もじ少年自然の家、かぐめよし少年自然の家の3施設で送付した結果、問い合わせが多数あり、ある程度の手ごたえを感じている。

このような活動を継続し、目標人数の達成に向けていきたい。

老朽化はかなり進行しており、どこかしら不良箇所があるというのが現実。

現在のスタッフは、DIYの達人が多く、小規模な修繕に関してはほぼ自分たちで直すことができ、経費削減につながっている。

代表企業の太平ビルサービスには、建物の専門家、ハード管理の専門家があり、技術員が最低月1回、施設を来訪し不良箇所を確認しているため、事前確認しチェックすることで、予防保全が出来、早期発見できている。

(検討員) 中学校の利用システムが変わったことから、新たな学校開拓や県外の広域に求めるというのも建設的な提案だと思うが、小学校で自然教室を体験し、また中学校のふれあい合宿と2回行くことになる。

新たな魅力がないとリピーターは増えない。新たな利用者を広域に求めるだけでなく、リピーターを増やすような考えはあるか。

コンセプトとして、「ふるさとの山や川での実体験が子どもたちを強く元気にする、また適切に「判断」できる子どもを育む」ということも、素晴らしいスローガンだと思うし、本当にその通りだと思う。

こういう体験をさせるには、低いハードルでは鍛えられず、ある程度高いハードルが必要と考えるが、その場合安全面を、どのように考えているか。

(応募団体) かぐめよし少年自然の家は紫川の源流の施設であり、山の施設でもあるため、その施設の魅力を常に出しながら、リピーターを開拓していく、まずは魅力的なプログラムの開発を考えている。

安全面については指導員がしっかりついて行うこと。常にプログラムを改善しながら提供し、新しいプログラムをデザインして提供していくということが、重要であると思っている。

今後はかぐめよしの魅力を、広報活動を通じて、最大限PRしていきたいと思っている。

また、リピーターの施設利用に関して平等・公平な利用を促している。すべての利用者に同じ条件で入所してもらい、公平利用の点では、障がい者団体など様々な団体の要望に応じて受け入れをしていくということがとても重要だと考えている。

どの団体も同じというわけではなく、個々の団体の要望を聞きながら要望に添ったサービスを提供することで、ホスピタリティ溢れる施設の在り方が

が出来ると思っている。

安全管理については、終わりが無い問題と考えている。山や川での活動の場合は、経験を積んだ職員を常に配置する、経験を積んだ職員を育成するため様々な資格を取得し勉強させるようにし安全管理に徹している。

職員を育成することが重要であり、かつ、安全管理マニュアルをきちんと作りそれに沿って事業を進める。

(検討員) 主催事業に関しての利用者が学校利用に比べたら少ない。
1年間の大体の主催事業の回数と今までの申し込み状況を教えてもらいたい。

小学校や支援学校の利用の予約状況を教えてもらいたい。

(応募団体) 主催事業は年間30回を予定している。
主催事業の実施方針としては、施設が具現化したい教育目標を提供することと位置付けており、安全管理が可能な人数で開催している。また、主催事業自体で利用人数を増やすという方針はとっていない。

入所団体については、すでに来年度のふれあい合宿と自然教室はほぼ決定し、例年通りの人数が、予定通り北九州市内から来ることになっている。

(検討員) ホームページの件で、Instagramを始めたようだが、Twitterをしていないのはなぜか。

(応募団体) Twitterは、職員の習熟度から現時点ではやっていない。
Instagramがより多くの方に見てもらえるのではということで、昨年よりInstagramを始めた。Twitterに関しては、希望が多ければこれから先、考えていきたいと思っている。

(検討員) Instagramではホームページ等のURLにダイレクトにリンクが出来ない。Twitterだと可能なので閲覧しやすい。ぜひ検討してもらいたい。

(応募団体) 今後、検討していきたい。

(検討員) 携帯の電波の状態はどのようになっているか。

(応募団体) ドコモに関しては問題ないが、ソフトバンクとauについては入る場所と入らない場所がある。

(検討員) Wi-Fiを繋ぐという計画はないか。

(応募団体) 今後検討したいと思う。

(検討員) 一般団体も利用出来るようだが、具体的にどういう成人団体が利用しているか。

(応募団体) 成人団体は、大学関係の合宿や、学校関係者が多い。
国際交流関係者やNPO法人の団体等も利用している。

(検討員) 広報のところで、Instagram か、Twitter に若者の利用が多く、フェイスブックなどを見るのは教員ぐらいの年齢で、SNSを利用している人たちの年齢層などを踏まえて検討していくのが良いのではないかと思う。

新しいプログラムの「観天望気学習キャンプ」や「かぐめバンブーキャンプ」は、とても魅力的だと思う。

- ・ 提案概要の説明と質疑応答を受けて、各自得点を記入

○ 検討員は、各自得点を記入したものを発表。その後、検討員全員で意見交換

(検討員) 理念のところが良かった。

研修をしっかり行い人材育成を行っている点、また、新しいプログラムを開発しているところが良かった。

障がい者の受け入れも含めて、平等利用の観点も良い。

(検討員) 指定管理のコンセプトが良い。

人的にも財政的にも運営基盤が整っている。このような管理が出来るところは他にはない。共同企業体同士が無駄なく効率的に人材交流できている。また、プレゼンの話が良く、色々なところに目配りが出来ている。

(検討員) 子どもたちの野外での体験がなかなかできない中、このような施設があることで体験が出来る。市内で他施設も運営しており、実績がある。

コロナが落ち着いてからの集客に少し不安があるが、共同企業体の代表企業の規模が大きく経営の面でも安心できる。

障がいを持った子どもたちを受け入れてくれるというのが良い。親元を離れて生活するという体験は非常に大切だと思う。

(検討員) 職員のスキルが高い。色々な施設を管理してきた実績がある。

修理などを行っているところを実際に見たこともあり、自分たちで出来ることは行って、経費の削減になっている。研修をしっかりしていて、外部講師を呼んだりもしているようだ。人材の育成が活かされている。代表企業と連携し、ハード面のサポートもしっかり出来る。

過去の実績や経験に基づいた、体制づくりというところは、評価できる。

(検討員) 新しいアイデアだったり、広報であったり、もう少し頑張っていたきたいところはあるが、市内、県内利用者の拡大に向けた努力の姿勢は評価できる。

- 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定
- 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

[総合的な所見]

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体は、SDGsの視点等も取り入れながら、自然環境の理解促進と子どもの健全育成を図っていくという基本方針に十分な適性が見込める。特に、これまでの豊富な実績や経験から、安全面への配慮や様々な研修・資格制度の活用等による人材の育成・配置などの安定した運営体制、更には、障がいを持った子どもの受け入れも含め、個々の団体のニーズに沿ったサービスの提供体制が評価できる。

一方で、SNSを活用した広報などに工夫の余地は見られるが、新しいプログラムの導入やダイレクトメールの積極活用などにより、今後の利用者増に期待が持てる。

以上により、検討会としては、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体は指定管理者として相応しいと結論づけた。

- 事務局より、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了